

平成 24 年度実証運行結果の中間報告（利用実績）

1. 乗車人員及び運賃収入状況

（平成 24 年 4 月から平成 25 年 2 月までの状況。（ ）書きは、運行開始（H23.10.17）から平成 24 年 3 月までの状況）

●門前線

1 日あたり乗車人員 119.6 人 （91.9 人）

1 日あたり運賃収入 17,892 円（14,000 円）

●西畑線・萩原線

1 日あたり乗車人員 21.4 人 （19.5 人）

1 日あたり運賃収入 4,073 円（4,555 円）

2. 平成 24 年度収支見込（【 】書きは、平成 23 年度）

●門前線

運賃等収入（見込）4,038 千円/経費（見込）6,194 千円=65.2%

よって、市負担割合は 34.8%（見込）となる。【47.1%】

●西畑線・萩原線

運賃等収入（見込）929 千円/経費（見込）6,225 千円=14.9%

よって、市の負担割合（見込）は、85.1%となる。【82.7%】

国庫補助金収入（H23 927 千円 H24 2,289 千円）を含めると、

運賃等収入（見込）3,219 千円/経費（見込）6,225 千円=51.7%

よって、市の負担割合（見込）は、48.3%となる。【51.1%】

3. ご利用の傾向

●門前線

前年度に比べ、利用が増加している。

生駒駅からの乗車人員と他の停留所の乗車人員の比率は、69:31 となっている。（前年度同様、帰りのご利用が多い）

朝の 2 便（生駒駅 8:50 発）の利用者がやや少ないものの、各便まんべんなくご乗車いただいている。（前年度利用がやや少なかった 1、3 便の利用も増えてきている）

運賃収入における、現金と回数券との比率は、39:61 となっている。（前年度に比べ、回数券率が 2%増加しており、継続的なご利用の割合がやや増えている）

高齢者だけではなく、買い物、通勤の利用もある。（前年度と同様）

満席により、乗車いただけなかった例がある。（14 便（生駒駅 16:45 発）に多い。大部分が生駒駅。前年度より回数が増している。満員便の率 5%→23%）

●西畑線・萩原線・有里線

利用者は前年度に比べ微増している。（継続的な利用がある。）

せせらぎ～南生駒駅間からの乗車人員と他の停留所からの乗車人員の比率は、53:47

となっている。(前年度同様、行き、帰り、同等のご利用がある。)

西畑線の6便(暗峠 15:27 発)のご利用が少ない(1日あたり1.0人。前年度同様)有里線への路線変更により、南地区路線の利用が増加の傾向にある。

高齢者だけではなく、通学利用もある。また、ハイキング等観光利用の例もある。

運賃収入における、現金と回数券との比率は、55:45となっている。(観光等随時の利用が門前線に比べ多いが、前年度に比べると回数券率が5%増加しており、継続的な利用が増えてきている。)

満席により、乗車いただけなかった例はほとんどない。(前年度同様)

4. 経路変更等による効果(2月末現在)

【門前線】

●平成24年10月1日の梅寿荘停留所設置前後の対比

(H23.10.17~H24.9.30とH24.10.1~H25.2.28)

1日あたり利用者数 105.6人→122.0人

(1日あたり梅寿荘停留所からの乗車人員 5.3人)

1日あたり運賃収入 15,271円→16,847円

【南地区】

●平成25年2月1日の運行ルート変更前後の対比

・前年同月との対比

南地区路線全体での対比	1日あたり利用者数	17.5人→19.3人
	1日あたり運賃収入	3,403円→3,428円
萩原線との対比	1日あたり利用者数	5.0人→6.8人
	1日あたり運賃収入	750円→1,018円

・運行開始から本年1月までの平均値との対比

南地区路線全体での対比	1日あたり利用者数	20.8人→19.3人
	1日あたり運賃収入	3,971円→3,428円
萩原線との対比	1日あたり利用者数	6.0人→6.8人
	1日あたり運賃収入	882円→1,018円

5. 利用促進に向けた方策

- ・自治会による集会等でのご利用の呼びかけ
- ・市ホームページに時刻表や路線図を掲載
- ・時刻表を作成し、車内・公共施設等で配布
- ・回数券の販売
- ・広報いこま、市ホームページへの掲載(利用状況、収支の見込 他)